

## 第8回ワクチンチーム会合（日本医師会との意見交換）

### 《開催要領》

- ・開催日時：2021年12月1日（水） 16:30～16:50
- ・参加者：堀内 詔子 ワクチン接種推進担当大臣  
佐藤 英道 厚生労働兼内閣府副大臣  
島村 大 厚生労働兼内閣府大臣政務官  
田畑 裕明 総務副大臣（オンライン参加）  
中川 俊男 日本医師会会長  
猪口 雄二 日本医師会副会長  
釜范 敏 日本医師会常任理事

### 《議事概要》

#### （堀内大臣）

- ・貴会ははじめ医療従事者の方々のご協力に感謝。
- ・追加接種について、接種間隔は原則8ヵ月以降、例外的取扱いについても公表した。交互接種も可能になるため、同一会場で複数ワクチンを扱うことについてもお話を伺いたい。

#### （中川会長）

- ・オミクロン株の2例目について速報が流れているが、その前から日本医師会、地域医師会は追加接種の準備を行っており、整いつつある。
- ・現場の一番の心配は、ワクチン供給であるが、体制が整った自治体は8ヵ月を待たずとも、接種できるようにするなど柔軟に対応いただきたい。
- ・率直な意見交換を行いたい。

#### （堀内大臣）

- ・8ヶ月間隔で接種するため必要な量のワクチンを早めに配送しており、例外的取り扱いにより8ヵ月より前に接種する場合は、残余ワクチンと供給の中で、対応いただきたい。

#### （釜范常任理事）

- ・自治体によっては残余ワクチンがあるところもあり、有効期限を延ばしていただいたが、心配しているという声も聞くので、体制が整った自治体は8ヵ月を待たず接種した方が、ワクチンの有効活用の観点から、また自治体間のワクチン偏在の観点からも良いのでは。

#### （猪口副会長）

- ・自治体の接種体制にばらつきが出そうな気もしているので、個別接種と集団接種の組み合わせについて多くの自治体に採用いただきたいと考えているため、国から方針を出していただきたい。

#### （釜范常任理事）

- ・接種間隔の短縮には要件があるが、取扱いは柔軟にしていきたい。
- ・複数ワクチンの取扱いも難しい。

#### （堀内大臣）

- ・都道府県に対しては、自治体間連携を取るようお願いしている。

#### （佐藤副大臣）

- ・感染拡大防止の観点からは、準備ができたところから、早く接種した方が良いというお考えか。

(中川会長)

- ・日本は、ワクチン接種率と公衆衛生意識の高さがマッチしたので、感染急縮小に繋がったと考えている。
- ・ヨーロッパでの再拡大も2回目接種者でも6か月くらいで抗体値が下がってきている方に感染しているようだ。
- ・オミクロン株のこともあるが、抗体値が下がってきたら再拡大の恐れがあるので、なるべく早く接種する必要があるということ。

(釜范常任理事)

- ・前倒し希望の接種者がどんどん出てきた場合、自治体の対応が難しい。国民の理解を得られる説明をしてほしい。
- ・3,700万回分の方々は、初回接種時はほとんどがファイザーを接種しているので、1,700回分のファイザー被接種者についてもモデルナで交接種してもらわなければ追加接種が進まない。

(堀内大臣)

- ・モデルナについてもしっかり周知していきたい。先生たちにもご協力いただきたい。
- ・接種間隔については、今後の状況にもよるが、現時点では原則8ヵ月以上でお願いしたい。

(中川会長)

- ・誤解を生まないような懇切丁寧な説明が必要。

(田畑副大臣：オンライン)

- ・ご指摘事項は受け止めたい。総務省内に地方自治体との連携本部を設置しており、内閣官房、厚生労働省と連携して、自治体のワクチン接種が円滑に進むようサポートをしっかりとやっていく。

以上